

東京都知的財産総合センター 成果事例のご紹介②(全11回)

鍼パック開封機などの製品開発で 特許と向き合う

株式会社ボーダーヒル

平成18年11月に起業した境一志氏は、さかい鍼灸整骨院の院長と、鍼灸用品の開発マンの、2つの顔を持つ。「安全」「衛生」「効率」的な治療環境を目指した鍼灸用品の新製品(鍼パック開封機、鍼ホルダー、廃鍼ボックスなど)を次々と世の中に送り出すとともにこれら知的財産の権利化を進めている。

代表取締役：境 一志

所在地：東京都新宿区西新宿7-5-6

ダイカンプラザ756ビル805号

業 種：医療機器の開発・製造・販売と

接骨・鍼灸の施術及び施設の運営

資 本 金：300万円

「現在の鍼灸治療環境にはまだ問題点がある。治療環境を改善し、より質の高い安全な治療ができるようにしたい。」これが鍼灸業界に飛び込んだ境一志社長の思いであり、新製品開発の原動力である。

こうしてできた開発製品は、精密板金加工が得意な(有)佐伯製作所に製造を依頼し、加えて模造品が出回るのを防止するために、特許で守ることを考え、東京都知的財産総合センターの助けを借りながら、鍼灸整骨院の施術を終えた営業時間外に一人で特許出願明細書を書きあげている。

電気通信大学電子工学科を卒業した境社長は、電機メーカーで制御技術の開発に携わってきたが、「起業したい」という願望を持ち、前職とは関係ない、東京医療専門学校で柔道整復科と鍼灸科に学んだ。在学中に公社主催の平成18年度学生起業家選手権で「鍼を汚染しないで取り出せる鍼パック開封機」を発表し、優秀賞を受賞。賞金300万円を元手に株式会社ボーダーヒルを設立した。この受賞製品「鍼パック開封機」も当センターのアドバイスを受けて明細書を書き出願した。

その後も「治療環境改善」に向けて数々の開発を手掛けている。こうした中で開発した「鍼を携帯する鍼ホルダー」は、当センターの担当相談員と二人三脚で特許化した製品のひとつである。出願後、特許庁の「無料の先行

技術調査」で、類似の公知技術(公開公報)を見つけたが、用途や構成などで差別化を図って早期審査請求を行った。その後審査官からの拒絶理由通知に対しても、担当相談員のアドバイスを受けて反論することで特許化(特許第4264959号「鍼灸針を携帯するホルダー」)に成功した。更に今年は「鍼数をカウントする廃鍼ボックス」も出願している。知財に向き合いながら医療の質・安全の向上に即した製品を作り上げる。境社長が夢見る鍼灸業界の“改革”は、これからが本番だ。

企業の声

通常だと手続きを代行してくれる弁理士を活用しますが、経営資源も限られているため、都の知的財産総合センターのアドバイスを受けながら、自ら特許明細書や、拒絶に対する意見書も書きました。その中には既に特許になったものもあります。今後も現場から、医療の質・安全の向上を考えた製品開発に取り組み、権利化していきます。

担当：知的財産活用推進員

児玉 俊一



当センターを利用し、経営に生かしている企業の取り組みを紹介している「成果事例集」を発行しています。

知財のよろず相談を専門家集団(相談員・弁理士・弁護士)がサポート!

東京都知的財産総合センターでは、中小企業の皆さまの知的財産に関するご相談を承っております

【無料・予約制】TEL 03-3832-3656

公社トップページ → メニュー一覧 知的財産